

小学校中学年（3，4年生）

1. 目標 地域の学習や戦争体験者などから原爆・戦争（紛争）の実相や悲惨さを学び，平和を願う心情を育てるとともに，戦争や不正義を許さない態度を養う。

2. 教材・資料例

3年生

教科・領域	出典	時期	教材・資料	学習内容や留意点	主題
国語	東京書籍	7月	ちいちゃんのかげおくり	空襲で家族を失ったちいちゃん が，青い空に浮かぶ家族の白い かげがうつっているのを見なが ら死んでいく。	3・5
			読書案内		
国語	東京書籍	10月	木かげにごろり	朝鮮の物語である。民衆の知恵 で権力者の傲慢さをこらしめて いく。	6
国語	東京書籍	11月	つなひきのお祭り	地域のまつりや行事や戦跡を調 べる中で，その由来や人々の願 いを知る。	2
国語	大阪書籍	7月	地らいをふんだゾウ	地雷をふんだゾウを助けようと 人々が力を合わせて努力する実 話である。	
国語	大阪書籍	10月	母さんの歌	原子爆弾によって命を奪われた 子どもたちの事実を，くすのき の目を通して表している。	3・5
国語	学校図書	7月	マザーテレサ	ノーベル平和賞を受賞したマザ ー・テレサの生涯を，写真とと もに紹介している。	5
			読書案内		
国語	学校図書	2月	世界中の海が（学校図 書）	マザーグースの詩を通して，世 界平和について投げかけてい る。	6
			資料編		
国語	光村図書	7月	三年とうげ(光村図書)	言い伝えにとらわれた人の愚か さを主人公のトルトリが知恵で 解決していく物語。挿絵などを とおして朝鮮の文化を学ぶ。	6
国語	光村図書	10月	ちいちゃんのかげおくり （光村図書）	空襲で家族を失ったちいちゃん が，青い空に浮かぶ家族の白い かげがうつっているのを見なが ら死んでいく。	3・5
社会	大阪書籍	1月	むかしのくらし見つけ た（大阪書籍）	戦争中のくらしについて調べま とめる。	3

総合	自主編集	10月～11月	朝鮮となかよし	知りたいことをグループごとに決めて、まとめたり発表したりする。	1・6
総合	自主編集	12月	朝鮮の暮らし	朝鮮料理を通して朝鮮文化にふれ、調理・試食してみる。	6
社会	自主編集	1月	ざだん会を開こう 「戦争中の暮らし」	お年寄りをまねいて、戦争中の暮らしについて聞く。	2
総合	自主編集	3月	お年寄りをまねいて	お年寄りをまねいてミニ発表会をする。	2・5
総合	自主編集 自主編集	9月	大久野島	毒ガスの島の事実を知り、加害の歴史や人々の苦勞を知る。	2・5
音楽	自主編集	7月	ヒロシマのある国で	歌を通して、原子爆弾の悲惨さについて知り、心をこめて歌う。	4・6
音楽	自主編集	2月	アリラン	歌をやことばを通して、朝鮮の文化を知る。	6
音楽	自主編集	9月	大久野島のうた	歌にこめられた意味や、作者の思いを知る。	6

4年

教科・領域		時期	教材・資料	学習内容や留意点	主題
総合			守ろうわが町の自然	指標生物から海と川の状態を知り、どうしていくか考える。	
社会	大阪書籍	6月	「命と暮らしをささえる水」	命をかけて被爆時にも水道局が動き、被爆時の様子を考える。	2
社会	大阪書籍	9月	昔の暮らし、見つけた	呉市の空襲の様子。	2
国語	東京書籍	10月	世界一美しいぼくの村	アフガニスタンのヤモの物語。家族愛の心だが最後はまちそのものがなくなります。	3
社会	大阪書籍	1月	わたしたちの住んでいる県	原爆が投下された広島県の様子。	4
国語	東京書籍	3月	一つの花	赤ちゃんのゆみ子が最初に覚えた言葉。戦争に行かなければならないお父さんと、戦争後の話。	3
国語	光村図書	11月	一つの花	赤ちゃんのゆみ子が最初に覚えた言葉。戦争に行かなければならないお父さんと、戦争後の話。	3
国語	光村図書	12月	一本の鉛筆の向こうに	鉛筆の製造方法から、世界の国の暮らしをみつめる。	7

総合		1月	守ろうわが町の自然	大根を育て、キムチを作り、朝鮮のことを学習する。	5
音楽 学習発表 会		11月	3年とうげ	3年とうげの劇の中に朝鮮の楽器でアリランを演奏する。	5
食育		年間	給食	外国の給食メニューがでたときに、その国との関係について話していく。	3

共通教材

教材・資料	教科・領域	時期	学習内容や留意点	主題
広島平和記念資料館 平和公園原爆の子の像	社会見学 総合	10月		1, 2, 3, 4, 7

(3) 実践例

実践例 1

教科と行事の関連を図った平和学習の取り組み(3年生)

1 はじめに

教科書教材と行事をリンクさせて平和学習に取り組むことにした。

まず、3年生の教科書から、平和学習につなげていくことのできる教材を選択した。そうすることで、点と点を線で結び、それを面に広げて、子どもたちが生き生きと平和学習を進めていくことができると考えた。

各教科の教材を見てみると、国語科教材に、韓国の昔話の『三年とうげ』(1学期)と『ちいちゃんのかげおくり』(2学期)があり、社会科教材には、『人々のくらしと道具』(3学期)があった。これらをリンクさせながら、総合的な学習の中で、韓国の文化をメインとして平和学習を進めようと考えた。

2 取り組み

(1) 総合的な学習

『世界の国々を知ろう パート1(韓国編)』(5時間)

1学期[韓国の文化に触れよう ~韓国を知ろう~]

ア.[張り子のトラを作ろう](2時間)(参観日に授業)

- ・ 張り子のトラを作る。
- ・ トラの出てくることわざを知る。
- ・ 昔話『トラと干し柿』を聞く。

イ.[韓国の歌を歌おう](1時間)

- ・ 『アリラン』を歌おう
- ・ 『トッケビの国』を歌おう
- ・ トッケビについて知る
- ・ 昔話『トッケビのパンマンイ』

ウ.[ハングルで遊ぼう](1時間)

- ・ あいさつの言葉・物の名前・自己紹介
自分の名前・ハングル文の解読

エ.[チヂミ作り](1時間)

『世界の国々の学校や文化を調べよう パート2』(5時間)

3学期[世界の国の文化に触れよう]

学校の様子、遊び、暮らし等について国ごとにグループをつくり、調べ学習をして、まとめて発表。



参考資料: 『韓国・朝鮮と出会おう』

(ヨコハマハギハッキョ実行委員会・山本すみ子)

(2) 国語科

『三年とうげ』(光村図書 7月)

トルトリの知恵や機知にとんだ一言や、過去にとらわれない発想の転換が、固定概念から抜け得ないで苦悩するおじいさんに力を与え、生き返らせて幸せにしたという内容であ

る。この物語のような発想を生んだものは、その国の民族性、地域性のもっている特色である。民話には、それぞれの国のそこに暮らす人々の生き方、考え方、感じ方などがにじみ出ている。隣の朝鮮・韓国のこのユーモアある民話から、その国の人々の心にふれるとともに、その文化を理解し、親しみがもてるように授業を進めた。

子どもたちにとって、張り子のトラ作りは『三年とうげ』の学習にも深くつながり、三年とうげで転んだおじいさんの変わりようにおもしろさを感じたり、三年しか生きられないと思いつめ、病気になったおじいさんに共感したり、また、トルトリの知恵に関心しながら読み深めていった。おもしろかったところや、不思議なことなど自分の考えをまとめて、とても意欲的に取り、韓国に親しみをもち読み味わうことができた。

『ちいちゃんのかげおくり』(光村図書 9月)

戦争は、家族の絆も、ひっそりと温め合っている小さな幸せも、かけがえのない尊い命も、すべてを無惨にも引き離し、奪い去っていく。お父さんの出征と空襲で家族を奪い去られ、ちいちゃんは一人残される。焼け野原の防空壕の中で、一人待つちいちゃん。子どもたちは、ちいちゃんの寂しさや、悲しさにじっと耐えているちいちゃんの思いを共感しながら読みとっていった。戦争を知らない子どもたちに、この教材を通して、再び、ちいちゃんと同じ運命の子をつくらないために、教材の願いを読みとらせ、戦争について正しく知らせることが必要であると考えている。

(3) 社会科

『人々のくらしと道具』(3学期)

おじいさんやおばあさんの子どもの頃の暮らしについて聞き取りをした。学校・遊び・食べ物・暮らしの道具などについて調べる中で、その背景にある戦争と直面する。子どもたちは、戦争について考え、命の尊さや平和の大切さについて考えることができた。

(4) おりづる集会 (7月7日)

児童会が進行するおりづる集会に、今年も38人の地域のゲストティーチャーの方が来られた。ゲストティーチャーの方も毎年楽しみに来てくださり、体験談(福山空襲・戦争体験・戦争中の暮らし等)を話してくださっている。子どもたちと地域の人との貴重な、平和を考える一日である。

集会の流れ

『青い空は』を歌う 児童会からの平和メッセージ 全校で戦争体験談を聞く
縦割り班ごとに各教室に行き体験談を聞く いっしょに折り鶴を折る

(5) 8・4 平和学習

- ・『青い空は』を歌う、校長先生の話
- 【低学年】絵本『さだ子と千羽鶴』鑑賞
- 【高学年】絵本『すみれ島』鑑賞
- ・長崎・広島パネル学習

(6) 社会見学 「福山人権平和資料館」

福山空襲について学んだ。



3 おわりに

子どもたちは、韓国の文化に触れ、実践してきたことが、国語科教材の『三年とうげ』の学習につながり、おじいさんの変わりようにおもしろさを感じるとともに、トルトリの知恵に関心をしながら、とても意欲的に読み深めることができた。子どもたちは、張り子のトラ作りから、人権平和資料館での学習を通して、「戦争」について、「命」について、深く考えることができた。そして、何よりも嬉しかったのは、学んだことが家庭にも広がり、家族の話題となり、実践していることであった。

今年から、8・4の全校平和学習は、教育研究部が企画・運営することになった。教育研究部が主に教材作りをし、映像として見せることにした。低学年が鑑賞した『さだ子と千羽づる』は、2年前に同僚と絵本を映像化したものである。今年は、高学年用に、視点を少し変えたものを作りたいと考え、特攻隊を取り扱った『すみれ島』(今西祐行 作)の絵本を映像化した。少しずつではあるが、個の取り組みから、学校全体での取り組みになりつつある。

おりづる集会で、多くの地域の人とのつながりがあるからこそ、平和を考える大事な日を消すことはできないと考えている。地域や保護者とつながっていくことは、子どもたちが生き生きと平和学習をしていくことになると確信している。今年度の取り組みを土台にして、点を線、線を面にしていく平和教育を進めていき、子どもたちの自主的な活動や地域・保護者を巻き込んでいく活動をしていこうと考えている。

実践例 2

森の学習 “大根と白菜を育ててキムチをつくろう”(4年)

～総合学習 国際理解～

1 ねらい

- ・国際理解とは世界を理解すると同時に、ふるさとを理解すること
- ・一度でもいいから、人には歴史や現状の違いがあることを考えてほしい

2 授業計画

月	内容	指導上の留意点	他教科との関連
9月	白菜と大根の種をまく 白菜と大根について調べる。	畑にサツマイモがある 場合、ポットに種をまく	
10月 ～ 12月	白菜と大根を育てる。 白菜と大根で作れる料理を考える。 キムチ作り名人を地域から探す。 キムチについて調べる。 <ul style="list-style-type: none">・ 歴史について・ 作り方について・ 日本と韓国朝鮮との関係について	根元に軽く土を寄せ、 追肥を 20 日間かくで 行う 事前に名人にはアポイ ントを取っておく。	参考図書 「韓国の教科書の中の 日本と日本人」 (一光社) 「知っていますか 在日 韓国朝鮮人問題一問一 答」(解放出版) 「ともに」(明石書店)
12月	キムチ作りを行う <ul style="list-style-type: none">・ 浅漬けを行う・ 本漬けを行う	キムチ作りをしながら 話を聞く。	

3 授業の感想

子どもたちは、指導者の皆さんとのキムチ作りをしっかりと楽しんでいました。一緒に作ることを通して、「どこで習われたのですか」「どうしたらおいしくできますか」などの質問が自然に出てきた。その質問に、答えてもらえた中から、その国のことが少し理解できたと思われます。やはり体験は大切だと思いました。

実践例 3

総合的な学習のなかで『1/2 成人式をしよう』（4 年生命・福祉）

4 年生は 10 歳という節目の学年である。そこで「1/2 成人式」を行い、自分の体の成長のこと、生命誕生のこと、自分への家族の思いなどを学習することで、命の大切さや平和について考えることができる。また、思春期を迎えるにあたり、自分の誕生を心待ちにしていた家族の思が心のどこかに残ってくればさらによいと考えられる。

1. ねらい

- ・自分の誕生について知り、命を大切にしようとする心情や、家族への感謝の気持ちを育てる。
- ・自分の 10 年間のあゆみを振り返り、自分の成長を確認し自分に誇りを持つ。

2. 取り組みの方法

総合的な学習 「1/2 成人式をしよう」（生命・福祉）15 時間 3 学期

3. 具体的な取り組み

（1）命のはじまり

心・体の変化（3 時間）

第 2 次性徴について学習していく。このこと（性教育をすること）については、学級懇談などで事前に話しておく。「家でしっかりされてますか？」と聞くと「してません。」「お願いします。」という返事が多い。

資料・・・「新・みんなのほけん 3・4 年」

「小学生版 性教育授業セット 男子の成長女子の成長」

アーニー出版 北沢杏子監修

「おとなになるということ」

（株）花王 河野美代子監修

命のはじまり（3 時間）

生命誕生について学習していく。精子・卵子の受精から赤ちゃんの誕生までをビデオや絵を使って学習していく。

そのとき、自分の誕生について家の人から聞き取りをしたことと重ねながら考えていく。子ども達は、妊娠したときの思いや出産したときの思いなど初めて聞いて自分の誕生を心待ちにしてくれていたことなどを知り、温かい気持ちになる。また 1 億分の 1 の確立で受精することに子ども達は驚いていた。

資料・・・海外性教育シリーズ

「おなかのなかの赤ちゃんの成長と誕生」

アーニー出版 北沢杏子監修

おなかのなかの赤ちゃんの成長（自作絵）

聞き取りの内容

- ア おなかに新しい命が宿ったことを知ったときどんな気持ちでしたか。
- イ 赤ちゃんが生まれたときどんな気持ちでしたか。
- ウ どういう思いで名前をつけられましたか。
- エ 今まで育ててきて心に残っていることはなんですか。

命のつながり（3時間） 生まれてからの10年間の思い出をまとめる。

イラストと文で自分の生い立ちを家の人に聞きながらまとめていく。そのなかで、家族の愛情、支え、また、平和な世界があったから今があることも同時に感じていけるよう絵本の読み聞かせなども行う。

資料・・・いのちのまつり「ヌチヌグスージ」

草葉一寿 作

サンマーク出版

人間を返せ

峠 三吉

（2）未来の自分

「なりきり作文」作成（3時間）

10年後の自分を想像して作文を書く。自分の将来の夢を実現させて活躍している様子を、子ども達が自由に書き進められるので、大変意欲的に楽しんで書くことができる。ドラフト1位で指名されプロ野球選手で活躍する子、美容師になって評判のお店を経営している子、パティシエになって活躍している子などさまざまである。そして必ず、そこには同級生の というシチュエーションで友達が出てくるのがおもしろい。これは2分の1成人式のときに発表する。ここでも夢が実現できるように平和な世界が続いていることの大切さを話していく。

（3）1/2成人式をしよう（2時間）

1/2成人式は3学期の最後の参観日に実施する。

10歳になった自分たちをお互いに祝福しあう。本学級では複式学級であるので、3年生は「お祝いの出し物」とプレゼントを作ることにした。出し物は、一人でやる。（これがプレッシャーだが結構やっつけのける。手品、笛、歌、クイズ、漫才など）単式学級では4年生がお互いにする）また、校長には“来賓”として祝詞をしてもらう。（以前ノリのイイ校長はタキシードで参加した）学級役員さんにも祝詞をもらったこともある。学校の職員もみんなお祝いしていることを感じてもらうため“祝電”ということで一言メッセージを協力してもらった。また、家族の人に本人に内緒でこの日のために手紙を書いてもらっておく。

4年生は成人の誓いを作成する。前半に一人ひとりがこの1年でできるようになったこと、後半にこんな大人になりたいということを考え作成する。

プログラム

一・はじめのことば

二・歌声

三・校長先生の話

四・出し物

お祝いの出し物（三年）

なりきり作文（四年）

五・お祝いのメッセージ

六・家族からの手紙

七・お祝いのプレゼント（三年）

1/2 成人式では、出し物やなりきり作文発表で子ども達の意外な一面が見られたり、なりきり作文の現実にはありえない展開に参加者全員で笑ったりと楽しいひと時が過ごせる。そして、職員のお祝いのメッセージを聞き、家族からの手紙を読んでいる時の子ども達の表情はいい。(手紙は封をしてもらい子ども達自身が封を開ける。担任は読まない。それを前提に書いてもらっている。)子ども達は読み終わるとはっと顔を上げ笑顔が出る。この表情を観察するのがまたいい。

(4) 家族へ (1時間)

今まで学習してきて、自分が生まれてきたことのすばらしさ、はじめて知った自分に対する家族の思い、家族からの手紙を読んでさらに心にわいてきた思いなどを今度は自分が手紙を書き、家族へ送る。(これも担任は読まない)

(5) まとめ

家族からもらった手紙と家族へ送った手紙、聞き取りをしたプリント、10年間の思い出をまとめたプリント、体の変化・命のはじまりを学習した感想プリント、なりきり作文などを1/2 成人式というくくりでその他のものと一緒に文集に閉じておく。そうすることで、文集を手にしたときに読むことができ、学習したときの素直な感動を思い出し、振り返ることができると思う。

実践例 4

総合的な学習と行事の関連を図った平和学習の取り組み（4年生）

1. はじめに

本校では、第4学年の2学期、総合的な学習の時間に「郷土・広島について調べよう。」というテーマで学習をしている。そこで、年度当初に学習内容を計画するにあたって、総合的な学習と行事を関連付けて平和学習に取り組むことにした。

まず、本校では、8月に児童会主催の平和集会、9月に社会見学として広島平和記念資料館への見学が、例年計画されている。そこで、それらをつなげ、ヒロシマの歴史や被爆の実相をより深く理解させる学習として総合的な学習の時間を位置づけた。

次に、学習したことをもとに、自分たちの思いを発表する場として学習発表会を位置づけ、音楽で表現するよう計画し、学習を進めた。

2. 取り組み

児童会主催の平和集会

児童会の提案によって、8・6前後の登校日には児童会主催の平和集会を続けてきた。当日、集会前に各学級で平和祈念式典をテレビで見せた。集会のはじめにみんなで「折り鶴」を歌った。そして、校長先生の話に続き、大型紙芝居「真っ黒なお弁当」の読み語りをした。児童会執行部のみんなが練習してきたものだ。子どもたちは熱心に聞いていた。最後に児童会長がアピールをした。

児童会アピール

今から62年前の1945年8月6日午前8時15分、広島の街は一発の原子爆弾によって破壊されました。そして14万人もの夢や希望、未来がうばわれ、かぞえきれないほどの悲しみが生まれたのです。

それから現在まで日本は過去のあやまちをくり返してはならないと考え、平和憲法を守ってきたので戦争には巻き込まれることはありませんでした。

しかし、世界では今も戦争がくりかえされ、私たちと同じ多くの子どもたちが傷つきなくなっています。地球上のすべての人たちが平和で安心してらせるために何ができるでしょう。

「平和」とは戦争がないことだけを言うものではありません。身の回りに少しでも嫌な思いをしている人がいるのであれば、「平和」であるとは言えません。いじめや暴力がなく私たち一人一人が他の人を思いやり、大切にし、みんなで仲良くしていくことが「平和」につながるのではないのでしょうか。

今日は平和についてしっかり考え、平和の大切さをこれからも伝えていきましょう。

総合的な学習の時間での取り組み

(1) 単元名「郷土広島について調べよう」(全28時間)[総合]

(2) ねらい

わたしたちが暮らす広島について調べることを通して、被爆の実相を学び、平和への思いを高める。

(3) 内容

広島の歴史や被爆したときの人々や町の様子について調べる。

学習したことをもとに、平和を築くために自分たちにできることを考える。

(4) 学習計画

「ヒロシマについて調べよう。」

学習内容	関連する学校行事
「ヒロシマ」の意味を考える。	社会見学 ・広島平和記念資料館 ・平和公園の碑めぐり
社会見学の計画を立てる。	
社会見学で学習したことを話し合おう。	
社会見学で学習したことを新聞にまとめよう。	
学習発表会に向けて ・音楽と言葉で平和への思いを表現する。	学習発表会 ・合唱・合奏の練習。 ・歌詞の意味を知る。

社会見学

社会見学として広島平和記念資料館の見学と平和公園の碑めぐりを計画した。

まず、平和記念資料館を見学した。入館してまず展示してあったのは、広島が軍都として発展した歴史や戦時中の様子、また、アメリカが原子爆弾を開発して広島に投下するまでの経緯など。子どもたちは、事前に作成した学習冊子に書き込む内容を展示の中から探しながら見学を進めた。子どもたちが特に興味を示していたのは、原爆が投下される前と後の街の様子を表した模型であった。平和公園は、かつてたくさんの家が立ち並んだ街であったことや、その街が一瞬にして破壊された様子に驚いているようであった。また、原爆が投下された後、街に残されたさまざまな物を目の当たりにして、それまで以上に原爆のおそろしさを感じたようであった。

次に、平和公園の碑めぐりをした。いろいろなガイド本を参考にして、担任2人で案内をして回った。途中、「原爆の子の像」の前で平和集会をもった。原爆投下から10年後に亡くなった佐々木禎子さんに思いを馳せながら、「おりづる」を歌い、児童会で取り組んで作った千羽鶴を献納した。最後に児童の代表があいさつを行い、参加者全員が平和への思いを新たにした。

() 平和記念資料館見学

() 平和公園碑めぐり

原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑

嵐の中の母子像

被爆アオギリ

峠三吉の碑

原爆慰霊碑

原爆の子の像

韓国人原爆犠牲者慰霊碑

原爆供養塔

原爆ドーム

～平和集会～

1. 黙祷
 2. 歌「おりづる」
 3. 千羽鶴の献納
 4. 児童代表のあいさつ
 5. 先生の話
- ～禎子さんと「原爆の子の像」

学習発表会に向けて

これまでの学習を通して考えたことや平和への思いをみんなに伝えることをねらいとして、学習発表会で音楽発表に取り組んだ。テーマを「とどけようヒロシマの願い」とし、発表する曲は、ヒロシマやオキナワを題材にして平和への思いが込められた曲を選んだ。それぞれの曲を初めて練習する時には、曲に込められた思いを子どもと考え合った。また、沖縄戦については、学習する場を設定し、沖縄の人たちの思いや、現在も米軍の基地が置かれている沖縄の状況について思いをめぐらせた。また、曲と曲の間に呼びかけを入れ、子ども自身の言葉で平和への思いを伝えるようにした。それらの取り組みを通して、子どもたちの歌声がより力強くなっていくのを感じた。

～とどけようヒロシマの願い～

「青い空は」(合唱)
「おりづる」(合唱)
「イマジン」(リコーダー演奏)
「花」(合奏)
「HEIWAの鐘」(合唱)

発表後、保護者からは、「感動した。」という声が寄せられ、子どもたちも自分たちの思いを届けることができた充実感をもったようである。また、他の学年の児童も平和への思いにふれる機会になった。

3. おわりに

総合的な学習の時間を軸にして平和学習に取り組んできたが、学校行事や児童会行事と関連させて取り組んだことで、様々な学習場面をつなげて一つの学習の流れをつくることができた。一つの行事が次の学習への動機付けとなり、子どもが意欲的に学習を進めることにつながった。そして、子どもたちが学習を通して抱いた思いや自分の考えをまわりの人に伝えようとする取り組みを通して、自分の思いを確かにすることができた。さらには、それぞれの子どもが、学習発表後に保護者や地域の方からの反応を得て、自分たちの訴えがまわりの人々の心を動かしたという実感を持つことができたと考える。

今年度は、ヒロシマを学習の軸にして平和学習に取り組んだが、この取り組みを次の学年、さらには、第6学年の歴史学習につなげていくよう取り組んでいくことが今後の課題であると考えられる。

4.年間計画例

3年生 年間指導計画例

月	学校行事	特別活動・児童会	総合	教科	道徳	読書ほか
4	入学式					
5	運動会					「アブニのアンマー」
6						おきなわ島の声
7		児童朝会「鶴を折ろう」		国語「ちいちゃんのかげおくり」(東京書籍)	手の中のぼたん(東京書籍)	ほたるの墓
8	8・5登校日			音楽「ヒロシマのあるくにて」		「折りづるの少女」
9	社会見学「大久野島」			音楽「フクロウと少年」		
10	学習発表会「三年とうげ」		朝鮮となかよし ・民話を読もう ・遊びを知ろう			
11			・日本とのつながりを調べよう	国語「木かげごころ」(東京書籍)		「おにのかなぼう」
12			朝鮮のくらし「朝鮮料理にチャレンジ」			
1			ざだん会をひらこう「戦争中のくらし」	社会「むかしのくらし見つけた」		
2	子ども美展	音楽朝会「アリアン」				
3	卒業式		おとしよりをまねいて「ミニ発表会」	国語「しょうたいじょうを書こう」(東京書籍)		

2006年度 N小学校4年平和教育年間計画(案)

		学校行事	特別活動・児童会	総合	教科		道徳	読書ほか
4月		入学式		守ろうわが町の自然	社会・大書 「ごみの処理と利用」	音楽・教育芸術社「子どもの世界」	「日本はどんな国」文溪	3年とうげ
5月							「富士山をすくえ」文溪	
6月					社会・大書 「命とくらしをささえる水」			白旗の少女
7月							「子どもたちをすくいたい」文溪	真っ黒なお弁当
8月		登校日		守ろうわが町の自然				しんちゃん <small>の</small> 三輪車
9月								対馬丸
10月		運動会 社会見学「平和公園」			国語・東書 「世界一美しいぼくの村」			
11月		学習発表会 3年とうげ チャンゴなど楽器					「はなさき山」文溪	
12月				守ろうわが町の自然				
1月					社会・大書 「私たちのすんでいる県」	理科・啓林 「水の姿」		
2月								
3月		卒業式			国語・東書 「ひとつの花」	音楽・教育芸術社「君が代」		とびうおのぼろやは びょうまで ます